

平成30年11月19日(月) No.431

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年175名 2年179名 3年156名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

「あなたならどうする？」

校長 高田 晶子

11月6日(火)に里中学校合唱コンクールを開催いたしました。PTA役員の皆様には会場の下見を行い、当日の運営に備えていただきました。お陰様で新たな会場でしたが、生徒たちの充実した体験活動ができましたことに感謝申し上げます。心に響く合唱をお届けできましたでしょうか。

また、多くの皆様に交通手段でご不便をおかけしましたが、ご参観いただきありがとうございました。



さて、10月19日(金)に川口オートレース場を会場にして、川口市の駅伝競走大会が行われ、女子が3位、男子が8位という結果を残すことができました。約100日間の練習に挑んでくれた里中学校の選抜選手たち。最後まで諦めない走り、女子は県大会出場を果たし、また里中学校に何よりも大切な勇気と励みを与えてくれました。選手の皆さん本当にお疲れさまでした。

駅伝競走は、日本でしか行われていない競技で、長距離を一本のタスキをつないでリレー形式で走るものです。駅伝のニュースの中に、10月21日(日)に福岡県で全日本実業団対抗女子駅伝の予選会の記事がありました。2区の選手が脚を負傷後、四つんばいになって前進したことを巡り、賛否の議論が巻き起こりました。報道された記事の内容は次の通りです。

<四つんばい前進に賛否> H30.10.24(水)朝日新聞を参考に

痛ましい姿がテレビ中継されたのは、2区を任された選手が、第2中継所手前約200メートルで立てなくなり、両手と両膝をついて進んだ。待ち続ける次の走者が涙を浮かべる場面も。たすきを渡し終えた選手の両膝は、路面ですれて流血していた。レース後右すねを骨折する大けがだったことが分かった。

リタイアさせる選択肢はなかったのか? 日本実業団陸上競技連合などによると、倒れた選手は審判員に「あとどれくらいですか」と残りの距離を尋ね、たすきをつなぐ強い意思を示していた。選手の異変を確認した監督は棄権を申し出たが、審判員に連絡がうまくいかず、審判員は本人の意向もありそのまま見守ったという。

ツイッター上では「選手の根性と執念に感動」「選手の体を一番に考え、すぐ周りが止める」などと賛否両論。テレビ中継の解説者は「係員や審判が勝手に止めるわけにはいかない。選手が行きたいと言っているわけだから。選手に寄り添った対応だった。」スポーツ評論家は「勝ち負けへのこだわりの行き過ぎを抑制するのも主催者側の役割で、止めるべきだった。『命のたすき』などと美談にすべきでない。」

みなさんは、どのように考えますか?